


ジェンダーに基づく暴力 ー オーストラリアの取り組みから ー

リレーエッセイ第 11 回は、国立女性教育会館（NVEC）で毎年開催している NVEC グローバルセミナーの基調講演から、女性に対する暴力防止のための海外における取り組みについて紹介します。


NVEC では 2021 年 12 月に「ジェンダーに基づく暴力との闘いーコロナ危機からの“より良い復興”に向けて」というテーマでグローバルセミナーを開催し、ジェンダーに基づく暴力の予防・撲滅・サバイバーへの支援を軸に、ポストコロナを見据えて誰もが安心して暮らせる社会をどのように構築することができるかについて議論を行いました。今月のエッセイでは、基調講演者であるオーストラリアの「女性のためのサービスネットワーク」（Women's Service Network、以下 WESNET）CEO のキャレン・ベントレー氏による ICT（情報通信技術）を活用した「暴力を受けた女性と少女に対する支援」について紹介します。

世界保健機関（WHO）によると、世界では女性の 3 人に 1 人が生涯の間に身体的・性的暴力の被害に遭い、ユニセフによると、10 人に 1 人の女の子（約 1 億 2 千万人）が望まない性行為やその他の性暴力の被害者となっています。ベントレー氏によれば、オーストラリアでは、15 歳以上の 5 人に 1 人の女性や少女が生涯の間に性暴力を経験しており、コロナ禍のロックダウン措置の中、約 10 人に 1 人の女性が家庭内暴力の被害を受け、そのうち 3 分の 2 がロックダウン中に暴力が始まった、またはこれまでの暴力が悪化したとのこと。


Safety Net Project: Working @ intersection of tech & violence against women



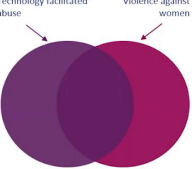
Technology facilitated abuse Violence against women



In Australia, nearly one woman a week is killed by a current or former intimate partner



One in 3 women, world-wide will experience violence in their lifetime



We work at the intersection of technology-facilitated abuse and violence against women



1 in 5 women have experienced sexual violence from the age of 15



Violence against women intersects with other social, political, and economic inequalities

© 2021 WESNET. All Rights Reserved



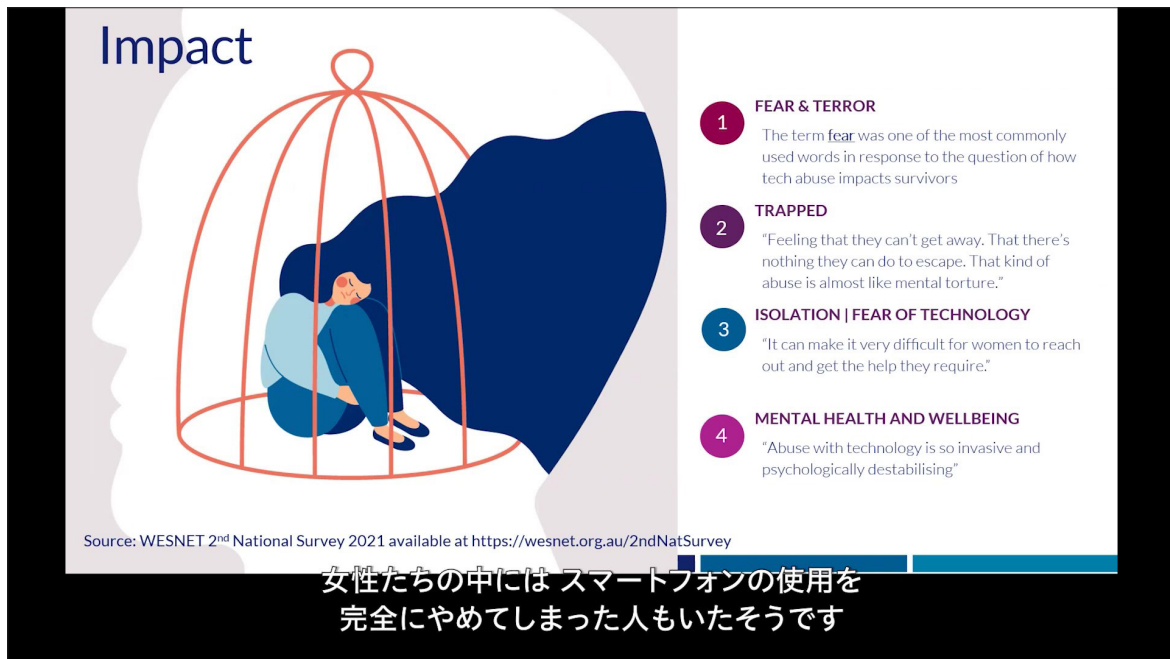
テクノロジーによって暴力を受けている可能性がある女性を支援しています

WESNET はオーストラリアにおける女性に対する暴力の分野で、支援現場や政策提言を統括する機関です。ベントレー氏は「テクノロジー」と「女性に対する暴力」の関係について、ジェンダー平等を達成するには、テクノロジーの危険性だけに目を向けて女性からテクノロジーを奪うのではなく、女性がすべてのテクノロジーにアクセスできる必要があると提唱します。女性の安全を高めるテクノロジーの例としては、iPhone や Android に内蔵されている緊急 SOS やその他の緊急連絡アプリ等があります。またオーストラリアでは暴力を受けた記録を証拠として収集できるアプリも使われ始めており、実際に警察や裁判での手続きに使われています。

WESNET の代表的な活動の一つに、2014 年からオーストラリアの通信大手会社 Telstra と協働で行っている「セーフコネクション」プログラムがあります。過去 7 年にわたって、オーストラリア各地 276 カ所の家庭内暴力の支援機関を通して、約 3 万台の新しいスマートフォンを暴力被害に遭った女性に無料で配付してきました。スマートフォンを女性に提供する際には、事前に訓練を受けた専門家がスマートフォンの危険性について説明を行っており、テクノロジーと教育を一体化させた取り組みが特徴です。この取り組みにより、女性の社会からの孤立を回避し、女性がテクノロジーの安全な利用方法を身につけることで、デジタル暴力の支配という悪循環を断ち切ることが可能になりました。



日本でも、全国に設置された配偶者暴力相談支援センターで、家庭内暴力の被害にあった女性への相談や支援が行われており、被害者が緊急に避難したり、一時的に別の場所に避難したりすることができますが、被害者が生活の拠点を離れることを前提としています。一方、オーストラリアでは「Keeping Women Safe in their Homes」という新たな取り組みが注目されています。家の中から暴力の加害者である男性を排除し、専門家による指導の下、自宅にセキュリティシステムを搭載し、女性と子どもが自宅を離れることなく、安心・安全に暮らせるようにするものです。



Impact

- 1 FEAR & TERROR**
The term **fear** was one of the most commonly used words in response to the question of how tech abuse impacts survivors
- 2 TRAPPED**
"Feeling that they can't get away. That there's nothing they can do to escape. That kind of abuse is almost like mental torture."
- 3 ISOLATION | FEAR OF TECHNOLOGY**
"It can make it very difficult for women to reach out and get the help they require."
- 4 MENTAL HEALTH AND WELLBEING**
"Abuse with technology is so invasive and psychologically destabilising"

Source: WESNET 2nd National Survey 2021 available at <https://wesnet.org.au/2ndNatSurvey>

女性たちの中には スマートフォンの使用を完全にやめてしまった人もいたそうです

デジタル端末を介して女性や少女に対する暴力が時に匿名で簡単に行使されることが、暴力を受けた女性や少女には恐怖心や閉塞感を与え、社会的・心理的孤立等の甚大な被害を及ぼしています。女性や少女が、こうした体験を通じてスマートフォンやSNSの利用を躊躇したり、テクノロジーへの関心を失ってしまったりすることは、ジェンダー平等の観点から大きな損失です。女性からテクノロジーを奪うことで、女性が学び、表現する権利やあらゆる活動に参画する公平な機会が失われてしまうからです。世界的に理工系分野への女性の進出が求められていますが、日本では特に、理工系への進路選択の時点での男女格差が切実な問題となっています。

女性と少女に対する暴力は重大な人権侵害です。ベントレー氏は「デジタル暴力において、責めるべきはテクノロジーではなく、テクノロジーを悪用する加害者である」と繰り返し述べられました。これは、女性と少女の社会的・経済的エンパワメントを推進していく上で非常に重要なメッセージです。では、私たちが女性と少女に対する暴力防止に向けてできることは何でしょうか？ 暴力を受けた女性や少女への支援や暴力が悪化する前の早期介入はもちろんのこと、ジェンダーに基づく暴力が他者の支配を可能にする政治的、経済的、社会的、文化的条件により作り出されていることを考えると、私たち一人一人が日常のあらゆる分野におけるジェンダー平等に関心を持ち、その解決に参加していくことが大切です。

これまでのグローバルセミナーはこちらをご覧ください。
< <https://www.nwec.jp/global/seminar/index.html> >



(有満 麻理／独立行政法人 国立女性教育会館 研究国際室 特任専門職員)